

ストップ！交通死亡事故！！

自分を過信せず思いやりの安全運転を

防災安全課では、子どもや高齢者などを対象とした「交通安全教室」を行っています。詳しくは、お問い合わせください。
 防災安全課交通防犯担当
 ☎5144



△目を覆いたくなる凄惨な事故現場。当事者にならないためにできることは。。。 (写真提供：古川警察署)

1月から7月までに6件の死亡事故

今年1月から7月までに、市内で発生した人身事故は319件、そのうち、死亡事故は6件発生し、6人の尊い命が失われました。事故の特徴としては、高齢者に被害が多いこと、シートベルトを締めていれなかったのではないかと思われ、例年に比べ、7月までに交通事故で亡くなった人の数としては突出して多く（左表参照）、さらに交通事故が発生しやすくなる冬季・年末に向け、大変、危惧される事態です。

市内の交通死亡事故の状況 (平成26年7月末現在)

	21年	22年	23年	24年	25年	26年
1月	0	0	3	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	2
3月	0	0	0	0	0	0
4月	0	0	0	0	0	1
5月	1	0	0	0	0	0
6月	1	2	0	2	2	0
7月	0	1	0	0	0	3
1~7月計	2	3	3	2	2	6
8月	1	0	0	0	1	
9月	0	1	0	0	0	
10月	1	0	0	1	1	
11月	3	0	0	1	0	
12月	1	1	0	1	3	
1~12月合計	8	5	3	5	7	6

飲酒運転には、「運転者」にも「周囲の人」にも厳しい罰則が設けられています

関係者別	違反種別	罰則内容	違反種別	点数
運転者	酒酔い運転	5年以下の懲役または100万円以下の罰金	酒酔い運転	35点
	酒気帯び運転	3年以下の懲役または50万円以下の罰金	酒気帯び運転 0.25 mg以上	25点
車両提供者	運転者が酒酔い運転	5年以下の懲役または100万円以下の罰金	[呼気1ℓ中のアルコール濃度] 0.25 mg未満 (0.15 mg以上)	13点
	運転者が酒気帯び運転	3年以下の懲役または50万円以下の罰金		
酒類提供者 車両同乗者	運転者が酒酔い運転	3年以下の懲役または50万円以下の罰金	周囲にも甚大な影響をもたらす飲酒運転は、絶対に許されません！！	
	運転者が酒気帯び運転	2年以下の懲役または30万円以下の罰金		

平成26年 秋の交通安全県民総ぐるみ運動

9月21日(日)～30日(火)

- 交通事故死ゼロを目指す日
9月30日(火)
- 運動の基本
「子供と高齢者の交通事故防止」
- 運動の重点 [全国共通]
 - ① 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止(特に反射材用品等の着用の推進及び自転車前照灯の点灯の徹底)
 - ② 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
 - ③ 飲酒運転の根絶

※この他に市独自の重点項目が設定されます。

交通死亡事故多発非常事態宣言を発令

この非常事態を打開すべく、市内の交通安全を推進する団体で組織する「大崎市交通安全推進協議会」の臨時会を8月1日に開催し、「交通死亡事故多発非常事態宣言」を発令するとともに、この事態を広く市民皆さんに周知するため、交通安全運動出動式を行いました。また、次の重点5項目を掲げ、8月の1カ月間に

- ◎ わたる交通安全運動を展開しました。
- ◎ 運動の重点
 - ◎ 子どもと高齢者の交通事故防止の推進
 - ◎ 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
 - ◎ 自転車の安全利用の推進
 - ◎ 飲酒運転の根絶・無謀運転防止の推進
 - ◎ 暴走族根絶運動の推進



8月12日に行われた、古川地区交通安全協会女性部による帰省客への交通事故防止キャンペーン事業の様子

自分への「過信」と他者への「思いやりの欠如」

誰しもが、起こそうと思っ、交通事故を起こすわけではありません。しかし、事故に至った原因は必ずあります。護ってくれるだろう、止まってくれるだろうという

思い込み、人や車を見落としたなどの不注意、ブレーキとアクセルを踏み間違えたなどの誤操作、合流のタイミングを見誤るなどの判断ミス、煽りや割り込み、速度超過・信号無視・一時不

停止・飲酒運転などの法規違反……。これらに共通することは自分への「過信」であり、他者への「思いやりの欠如」であると言えるのではないのでしょうか。

大崎市交通安全母の会
連合会会長
えいつか まさこ
永塚 正子さん



私たち交通安全母の会では、大崎(古川地域)から全国に広まった「交通安全は茶の間から」というスローガンを念頭に、家庭内から始まる交通安全を推進しています。「いってらっしゃい。気をつけてね」というちょっとした一言や家庭内のコミュニケーションの積み重ねが、心を穏やかにし、交通事故の抑止にもつながっていくと思います。忙しい毎日だからこそ、ドライバーの皆さんには、心に余裕をもって、思いやりのある運転を心掛けてほしいですね。

市民一丸となって交通死亡事故ゼロへ

ドライバーの皆さんは、自分の運転技術や判断能力を過信せず、歩行者や他のドライバーを思いやる気持ちを第一に、交通死亡事故

がこれ以上発生しないよう安全運転を行いましょ。歩行者も自分は大丈夫という思い込みを捨てて、ルールを守り、交通安全意

識を高めていきましょう。交通死亡事故ゼロのまち大崎市を目指して、市民一丸となって、交通安全を推進していきましょう。